

事業所職員向け 援自己評価表

	チェック項目	はい %	いいえ %	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	50	50	利用人数が多い日に、部屋が狭く感じる。
	2 職員の配置数は適切であるか	75	25	放課後等デイサービスの職員が手伝いに入る場面もあり、助かっている。人数の多い日に職員が不足している(配置基準は守っている)
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	87.5	12.5	活動内容を写真や文字でボードにはって伝えるようにしている。活動によって部屋を分けているので、子供にはわかりやすくなっている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100		毎日、掃除を実施している。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	62.5	37.5	振り返りを行う時間をもっと確保したほうがよい、
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	75	25	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	62.5	37.5	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	50	50	第三者評価を実施していない。 第三者として、誰に評価してもらうか難しい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	50	50	コロナ禍もあり十分に実施できていない。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	62.5	37.5	保護者との面談の機会をもっと増やした方がよい。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	62.5	37.5	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	75	25	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	87.5	12.5	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	87.5	12.5	クラス担任で立案を行っています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	62.5	37.5	マンネリ化していると思う。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	50	50	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	62.5	37.5	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	62.5	37.5	毎日は難しいが、極力実施するように努めている。 全くしていないわけではないが、話し合いの時間をしっかり作れば、より次回に活かすことができる。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	75	25	記録をして終わっていることもあるので、次につなげるようにしっかりと検証をしたい。

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	87.5	12.5	
--	----	--	------	------	--

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	75	25	クラス担任が入る方が子供の正しい情報を伝えることができると思う。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	87.5	12.5	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	75	25	移行支援のための情報共有は実施できていない。今後のための関係づくりに努めている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか			就学先との情報共有や相互理解を実施します。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	25	75	研修を受けていない。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	12.5	87.5	障がいのない子どもと活動する機会を設けることができていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	25	75	直轄地区自立支援協議会、医ケア子供部会に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	75	25	出来ているところとできていないところがあると思う。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	25	75	十分に実施できていない。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	87.5	12.5	説明を行ったつもりだが、齟齬が生じている場面があったため十分ではなかった。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	75	25	見直しの際など、もっとしっかりと面談を実施したい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	75	25	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		100	保護者会を組織していない。保護者同士の連携の場がない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	87.5	12.5	毎月、きらりだより、クラスだより、給食だよりを発行している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	100		写真の掲載には特に注意している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	87.5	12.5	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	12.5	87.5	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	87.5	12.5	周知が十分ではない。 訓練が形式化している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	87.5	12.5	訓練は実施しているが、訓練であるという認識があり、実際にあった時を想定して動くというよりは、マニュアル通りに動くようになっている。もっと緊張感をもって取り組むことが必要。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	100		投薬依頼書等の徹底
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100		事前の確認を行ったうえで対応を検討している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	87.5	12.5	場合によっては記録に残せていないものもあるので、しっかりと共有するようにすべき。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	87.5	12.5	職員会議等で、権利擁護、虐待防止について話し合っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	100		身体拘束を行うことがない。(現時点で)